



発行所 郡原公民館
西蒲原郡 保原町 卷
印刷所 北洋印刷株式会社
(西蒲、卷町、電話20番)

昭和二十六年の

卷町の五大ニュース

中學校屋内運動場の完成、常備消防の設置、縣会、町長、町会議員の選挙、住民投票による卷町警察の廢止、獨立公民館の設置等々、複雑多岐の昭和二十六年もおし迫り、あと幾日もなく新しい年を迎えようとしております。

- 一、一五通 常備消防の設置
- 二、一一通 自治警察の廢止
- 三、九通 町長選挙
- 四、九通 中學校屋内運動場完成
- 五、七通 町議会議員選挙
- 六、七通 獨立公民館設置

常備消防の設置

フオードA型自動車ポンプが五月十日の夕方我が町に姿を見せた。

見送りつづけている。いつまでも平和な卷町の夜が続けられるであろう。

自治警察廢止

この自動車ポンプを操作する常備員は一班五名(中運轉手一名)二班五名(中運轉手一名)の十名である。私達が安らかな眠に入つた最夜中、常備員は只黙々として町のすみずみを

七月二十八日急施町議会は卷町警察を維持しないことに満場一致、これを議決し、住民投票に附さねばならない關係上直ちに卷町選挙管理委員会に通告され

自治体警察廢止に賛成 一、四一四票
自治体警察廢止に反対 五〇九票
有権者總數五、八七七
男二、六九九
女三、一七八
投票總數 一、九八八
男一、一〇七
女 八八一

町長選挙

立候補、候補辞退とくり返した卷町長選挙も五月八日より十三日に延びて、結局本間代吉氏、竹内長永知氏の一騎打の形で選挙が行われた。

開票の結果は
得票數
三、〇九〇票本間代吉
七八一票竹内長永知
有権者數 六、〇〇九票
總投票數 四、〇二四票
有効投票 三、八七二票
無効投票 一三二票
投票率 六六・六%

卷町議会議員選挙

戦後二回目の卷町議会議員選挙は五月二十三日、定員の二十六名に對し、候補者三十二名という熱戦を展開して現在の町会議員が当選した。

有権者數 五、九七四
總投票數 五、六三七
有効投票 五、五九四

獨立公民館の設置

十一月二十一日の町議会第五回臨時会において、舊織維組合の土地建物、設置を買収して公民館として使用する事になり十二月一日より仕事を始めた。

階上 四四、〇〇坪
計 八四、六六坪
公民館開館記念事業として郷土史料展を開催した。

町議会だより

出席二十二名
一、財産の取得について舊織維組合の土地建物、設備を買収して町有財産とする事と。(公民館並に商工会事務所として使用)

六、國保本年度予算に三拾三万円を追加し予算合計約一千万円となつた。
七、卷町選挙管理委員会委員並びに補充員の選挙について
委員
久保田平三郎
星野亥之松
久我 正敏
有坂善兵衛

一、眞島平治
二、小沢法全
三、福田幸二郎
四、沢 政郎
以上当選
右の外各種委員会を開催活動を行つた。

卷町公民館 使用規則

(使用の申請)
第一條 卷町公民館(以下館という)を使用せんとする者は左記事項を記入の上使用三日前に館長の承認を得て町長が許可する。
一、使用の目的
二、使用の日時
三、使用団体名
四、使用者數
五、使用責任者名認

去る八日の夜公民館で青年だけの圍碁、將棋大会が催された。盤をかこんで精魂の限りを盡くして激闘する若者の姿は見ていても気持ちのよいものである。若將棋は計數的の思考力に技術を織りませた知的遊戯で而も対局者の個性がハッキリと現われる処に無限の興味がある。

碁の實

第二條 館使用時間は概ね左の通りとする
午前九時〜午後十時迄
(使用の不許可)
第三條 公民館は次の場合使用を許可しない。
一、個人の營利を直接目的とした使用であるとき。
二、公民館事業に支障のあるとき。
その他。
第四條 使用の場合係員の指示に従わねばならない。もしこれに反する場合は使用を取消すことがある。
第五條 その他必要な事項は町長がこれを決める。

この規則は昭和二十六年十二月一日より施行する。

道徳教育の基底

巻小學校 小野塚 謙 士

一ヶ月前ばかりの新聞紙上に天野文相談として、近く「國民道徳必修の書」なるものを広く教育関係社会に明示する考である。と云う事が載つていて教育の問題上多少なりとも関心を示している人々の心を左右に大きく揺つた事が一つの大きな契機となつて、特に私達のように學校教育の實際に當つている者の間に昨今、道徳教育の根本問題が当面の焦点になりつつあるようである。私もこの紙上を借りて、新しい教育と銘うて行われて来た巻小學校の教育課程の中に道徳教育と云う分野が如何に位置づけられ取扱われて来たか、又今後如何なる問題が残されるかと云う様な事を実際的に述べて見ようと思ふ。

と云ふより、文相の表題に対して、實際家としての立場から云々し様とするのではありませぬ。文相の表題が所謂表題だけで内容が明確になつていない今日表題から受ける一般的な感じだけで、この問題の歸趨を論ずるわけにはいかないからです。戦後修身教育の再検討が要請された結果、修身書の姿が教育図書の中から立消えになりその結果、道徳の規範を何所に求めるべきかと云う論議が實際家の間でも一般社会でも大きな問題になつた事は、私達の記憶に新しい事でありますが、その問題自身がそもそも一般社会に新教育に対する疑惑の念を強めた所以であつたと思ふ。今までの修身教育が一應否定されたから何に、より所を求めるべきかと云うのではなく、道徳教育の本質は何であるか、その基底になるものは何であるか。小學校に於ける道徳教育の範圍は？と云う問題に發展して行く所に道徳教育のたゆまざる進展があるのではないかと思ふ。たゆまざる發展、膨脹の社会の中にあつて、道徳律のみが過去の遺産として残っているわけには、參らぬと思ふ。然し、たとへば長上を尊敬し弱小を勞わろうとする行動は、人間社会が美しく進展する上に取つて、永久につきない美しい道徳律となつて、我々の生活の中に生きて行くべきものだと、誰れしもが、うなずける所であらうと思ふ。

この様に従來の修身なるものは実に、ここに根本意義があつたのだらうと思ふ。然し教育と云う大きな観点から、その問題を取り上げて見る時、教育は唯單に人間の作つた文化の遺産を切り売りするに止まる事では意義がなく、社会の生成發展は望むべくもな

いと云う事は誰れしもうなずける所だらうと思ふ。と同じように道徳律は唯單に遺産として残された分野を傳承するにとどまる事だけでは道徳教育の意義がないのだと思ふ。新しいモラルが常に新しい文化を生み、常に新しい生活として社会の中に滲透して行く……こう云つた一連の生成發展が教育の根本問題であるとするならば、その様な意味あいから近代的な道徳律の基礎づけが、今後の日本の教育を大きく意義づけるものだらうと信じておられます。

昔話 一つ

【拔書・聞書・覺書】

『温古の葉』の長嚴寺の項に「石山寺の役に住職了慶不惜身命の門徒數十名を率い籠城。比數なき働きの後討死。法主より遺族へ直筆の書を賜ふ」とあり、また專福寺の項にもこの出陣のことが記載されています(當時專福寺は巻になく後年移轉して来ました)。元龜元年(三八一年前)九月織田信長は大坂石山の本願寺を一気に押しつぶさんとしたが石山の抵抗強く、同三年

九月一應和議が成立するかにみえたが十一月破談になりました。天正三年八月和議、翌四年また破れ信長自ら五万の兵を率いて石山を圍み一勝一敗の間に天正六年を迎えました。その間信長の臣荒木攝津守が叛つて本願寺に加担したり戦いはよりはげしくなりました。翌七年十月信長も戦力で信仰を壓することの非を知り本願寺に請うたが願如上人に一蹴され翌八年正親町天皇に

和議について勅命を仰ぎここにはじめて和議が成立、願如上人も石山を退いて紀州齋の森(和歌山縣)に移ることになりました。これがいわゆる石山の役の畧記です。最初に引用した長嚴寺一巻との関係ですが、この戦いに出陣したのは何名かは知りませんが、傳説によると巻の住人野沢六左門以下十六名が討死し、鷲の森に葬られていた由です。野沢六左門とはその名の通り現在でも屋号として残っている野澤ろくせんどのことでしょうか。当家は内藤家などと共に巻で古い家柄で、もと山添醫院の東側にあり内藤家と向い合つていたそうです。諏訪神社北側の杉は昔同家が奉納したのだといわれています。

卷中学校歌

金子彦二郎作詞 小松 耕輔作曲

一、朝つく日影にかがやく遠山
寛宏の心は
われにぞ學べと
學園抱いた
蒲原平野は
生々化育の

轉載歌

石田節之助

憎き女玩具の馬を買つているトリス一
瓶籠にのぞかして
入賞の卵を産みし汝がロードは今日も
火葬場に灰撒散す
先生を偏屈おやちとは氣に喰はぬ貸し
たる私注を汝すぐ返せ 万葉集私注
時ときは鶏舎を荒す青大將擬卵呑みて
よりは來たらず
起立して吾は挨拶す廻轉椅子の君はか
つてのわが從卒

ふところ開いて
元氣なわれらを
笑顔でむかえる
目ざめて起とうよ
若人巻中

二、夕映花やぐ
入日のみ空に
肩骨殿強い
弥彦の靈峰
西川川面に
影消え去るまで
正義と自由
根ざした知性と
うるおい豊かな
徳操みがこころ
あげよう美果をば
若人巻中

三、文化の日本
平和の祖國を
明るく新たに
善美をつくして
造営む良き材の
中でも名を得
眞木の木柱と
生い立ち茂るが
今このわれらの
負いもつ使命ぞ
果たそう見事に
若人巻中

あとがき

北國特有の季節風が雪を伴つてようしやなく吹きまくる。はや幾日もなくして今年も暮れようとしている。この年の瀬に今辭かこの一年を反省すると、われわれにとつて一番大きな問題として関心を寄せたものは何んと言つても終戦後六星霜振りにも日本も曲りなりにも獨立國家としての新しい日本の一頁が開かれた事であろう。次はこれに対して私共はこの新しい日本史の創造者として、又自由世界への一年生として各々の立場で學び、仕事に關み、豊かな文化生活の中から新日本の基礎をつくり上げてゆかねばならないと痛感した。我々の前途は決して容易なものではないという事であろう。更に私共巻町に於ては町長、町議、縣議の改選、常備消防の設置、中学屋内運動場の完成、自治警察維持に關する住民投票、獨立公民館の設置等々複雑多岐の中に一歩一歩健全な歩みが續けられている。▼あたかも不死鳥のようになければならぬきびしい現実に向向から取り組んだ新しい希望の年を迎えたい。